

# 丹波篠山 日本遺産めぐりツアー 実績報告

(「丹波焼」と「王地山焼」をめぐるコース)

実施日 平成29年6月11日(日)

<p>コース行程</p>	
<p>実績・成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者15名(篠山市民11名・篠山市外4名)</li> <li>丹波新聞 6月15日掲載</li> <li>篠山市民の参加者の方からは「近くに住みながら、あまり歴史的な事を知らなかったもので、全般的に有意義でした。」「篠山にいながら篠山のことを知らないの、篠山のよさを知れてよかった。」といった声をいただき、篠山市民の方の、日本遺産のまち 丹波篠山の魅力再発見につながった。</li> <li>アンケートを記入した全員の方から、このツアーに参加して日本遺産への理解が深まった、との回答を得ている。</li> </ul> <p>平成27年度認定「丹波篠山 デカンショ節—民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶」、平成29年度認定「きっと恋する六古窯～日本生まれ日本育ちのやきもの産地～」の両方の周知に繋がった。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>アンケート結果に「料金を取って、昼食らしい(篠山らしい)もコースに入れていれればと思った。」「昼食込みのコースを設定してほしいです。」「ガイドの内容(もっと深く知りたい)(食も楽しみたい)」といった、篠山の食を楽しめるスポットを盛り込んでほしいとの希望が、篠山市内外の方問わずあった。篠山の食を楽しめるスポットを盛り込む、もしくは昼食時間については、もっとお店の選択肢がある地区でとるなどすれば、さらにツアーの充実・満足度向上が図れるものとする。</p>

## 実施風景



丹波焼最古の登窯



丹波焼窯元「昇陽窯」



丹波立杭 陶の郷



丹波古陶館



王地山陶器所



王地山稲荷(まけきらい稲荷)

## 篠山の魅力再認識

### 市日遺産 日本遺産巡るツアー

篠山市日本遺産推進協議会は、2つの日本遺産に認定された篠山の魅力を市民に再認識してもらうと、市内の日本遺産ゆかりの場所を数回に分けてガイドの案内でめぐるツアーを企画。初回の11日は丹波焼の里、今田町立杭地区と王地山焼の里、河原町をめぐった。市内在住・在勤者を対象に募ったところ15人が参加。丹波焼最古の登り窯や丹波古陶館を見学したほか、丹波焼窯元の工房では電動ロクロ体験、王地山陶器所では着書きの染付体験などを楽しみ、地域の伝統文化に親しんだ。

丹波焼の里では、丹波焼一昇陽窯一窯元の大上裕さん(63)が今田町下立杭がガイドを務めた。最古の登り窯の前では「登り窯はガス窯と比べて歩留まりが悪く、2〜3割は作品にならずに捨ててしまう。大変なロスだが、その分、ガス窯では得られない、炎が走った痕、などの風合い」や重厚感はずばらしい、など解説していた。また、大上さんの工房で電動ロクロを使った作陶体験。参加者たちは、大上さんに手を添え、もらいながら湯呑や皿を作ったが、指先の角度がわずかに狂っただけで一瞬にして粘土がくしゃくしゃになり、「あー」とため息がもれていった。大上さんは、「粘土の酒、黒豆、お茶の特産品形が変わっていくのがおもしろかった」と笑顔。細見淳子さん(61)は、「茶道や華道が趣味なので、大上さんの手ほじきを受けながら電動ロクロによる作陶体験する参加者」篠山市今田町下立杭で

で丹波焼には昔から興味があった。今回実際に土に触れ、窯元さんと話を交わすことで、ますます丹波焼のファンになりました」とほほ笑んだ。同ツアーは、同協議会から委託を受けたワイズささやまが実施している。この後も、▽篠山の酒、黒豆、お茶の特産品めぐり(11月21日)▽篠山、八上、興分城跡めぐり(12月10日)のコースを予定している。開催日の1週間前まで随時募集している。問い合わせや申し込みは、市立歴史美術館(079・552・0601)。

丹波新聞 平成29年6月15日掲載